大泉ひろこ つくば市を語る

4号

研究学園都市から――科学産業と福祉のまちへ《2》

―厚生省に30年勤めた大泉さんが、つくば市でどのような福祉のまちづくりをしてくれるのか大きな期待があります。大泉さんは国の子育て支援政策「エンゼルプラン」や、福祉の基本理念を定めた社会福祉法づくりに関わったと聞いています。現在、政策として「市民の需要に応える選択肢の多い子育て支援、介護、地域医療、教育の実現」を掲げていますが、「福祉のまちーつくば」の姿をどう描いていますか。

選択肢の多い福祉と医療・介護へ
―弱者の視点を重視して

【大泉】社会福祉は2000年に始まった介護保険制度を境に、行政が決め、行政にお世話になるという〝行政処分〟から、利用者が事業者と契約を結んで必要なサービスを受ける〝権利〟に変わりました。当時、介護保険の考え方の基礎となる社会福祉法の策定にたずさわり、福祉の仕組みを変える仕事をしました。

小規模化・多機能化基本に

【大泉】利用者が必要な福祉サービスを受けられるようにするには、介護を産業に育て、民間が活躍し、利用者の需要に応えられるサービスを提供してもらうことが求められます。

◆つくば市の福祉のまちづくりでは、小規模化、多機能化して選択肢を増やし、一人ひとりの需要に応えていくことを基本にすえます。選択肢を多くすることは、事業者が市場で切磋琢磨（せっさたくま）しサービス向上に努めることにつながります。小規模化することは、目が行き届くようになり福祉の質に関係します。

◆そのときに、市が最も配慮しなければならないのが基礎年金だけの方、母子家庭などの理由で低所得の方のサービス受給を確保することです。介護施設ひとつとっても、個室料や食費などで高額化する傾向にありますから、基礎年金だけでサービスを受けられる施設をつくっていくのが市の役割です。

研修と監査と相談事業で

―つくば市は昨年10月の調査で保育所の待機児童が県内ワースト1位、高齢化率は筑波地区と茎崎地区が3割超と高いなど課題があります。選択肢が多い福祉や介護を実現する道筋を教えてください。

【大泉】土台づくりをするのが行政の役割です。福祉の現場では「介護職がどんどん辞めてしまう」「保育士の担い手が足りない」といわれます。医療はすべての職が資格を持たなければなりませんが、福祉はすべてが資格を持たなくても就くことができます。例えば小規模保育施設なら、基本は保育士ですが子育て経験のある保育助手も子どもたちをみることができます。

◆適切な研修制度を設けて、介護助手、保育助手を育てるのが行政の役割です。市の研修を受けた人に市独自の資格を付与することなどを考えています。担い手として特に子育て経験のある50代、60代に期待しています。50代、60代は仕事を辞めてもまだまだ戦力、元気な人なら70歳まで活躍できる分野です。

◆また福祉は相談機能を一番必要としています。具体的には介護や保育の相談窓口を身近なところにたくさんつくりたいと思います。

待機児童が最も多い研究学園地区で保育園の園長らから話を聞く大泉さん㊧

◆同時に、小規模化・多機能化したサービスを市が監査し、監査を通して質の高いサービスを確保していくことも行政の役割ですし、国に対して保育士・介護職の報酬引き上げを常に求めていきます。

◆つくば市は地域差がすごくあるまちなので、例えば待機児童が多い研究学園地区などTX沿線に子育て支援のモデル地区を、高齢化率が31％と高い筑波地区や茎崎地区に高齢者福祉のモデル地区をつくります。

◆医療・介護では、団塊世代が75歳以上となる2025年を目標に、要介護になっても住み慣れた地域で暮らすことができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する、地域包括ケアシステムづくりが進んでいます。訪問診療や訪問介護もサービスを増やし、バラエティあるサービスで需要に応え、地域の中で医療を完遂できるようにします。つくば市は高齢化率が全国平均より約8ポイント低いので、いち早く独自に政策を完成させることができるでしょう。このほか、歩いて健康になるまちづくりなど歩道を整備し、健康づくりも加えたいと思っています。

誇りもち夢の実現へ

【大泉】前号（7月17日新聞折り込み）では科学産業都市をつくり、雇用をもたらし、人が集まるまちづくりをするという話をしました。科学産業都市はまちをけん引する手段ですが、福祉のまちづくり、すなわち市民の需要に応える社会サービスが整備されたまちづくりは、住んでいる人が家族や友人、地域の人と豊かな生活を送り、夢を実現させ、誇りをもって生活するためにあります。

◆社会サービスの整ったまちをつくることは行政の究極の目的でもありますから、家族形態や所得の高い低いにかかわらず、だれもが福祉サービスに手の届くつくば市にしたいと思います。

（制作・常陽新聞）

次回は市役所の役割について聞きます。

みなさまのご意見、ご賛同を心よりお待ちします。

「新しいつくばを作るみんなの会」
E-mail. ooizumi-110@indigo.plala.or.jp
ホームページ http://www.ooizumi-hiroko.com/

大泉ひろ子 略歴

1950年　東京生まれ、曽祖父が茨城県
1972年　東京大学教養学部卒業、厚生省入省
1977年　米国ミシガン大学大学院行政学修士取得
1983年　ユニセフ(国連児童基金)インド事務所計画評価官
1987年　厚生省大臣官房国際課対外経済問題対策室長
1996年　厚生省児童家庭局企画課長
1997年　厚生省社会援護局企画課長
1998年　山口県副知事
2005年　オーストラリア国立大学大学院国際学修士取得
2009年　衆議院議員当選 公務員改革、つくば国際戦略総合特区、社会保障と税の一体改革に力を注ぐ
2013年　民主党を離れ無所属で活動
現　　在　つくば市吾妻在住

なぜ厚生省に進んだのか…

団塊世代の私は、戦後の貧しい日本から高度経済成長期の日本に至る過程で成長しました。大学生の頃には、老人医療の無料化が全国で始まり、豊かさとは所得を増やすことだけでなく、社会保障を整えることだと考えるまで社会は変化していました。私は、その仕事を一生の仕事にしようと、厚生省を選びました。(大泉ひろ子)

インドの子どもたちの福祉向上のために働きました。

▶インドの小学校。校舎が整備されておらず屋外で授業を行う青空教室。

利用者本位の保育所、学童保育の法制化を実現しました。

◀改正前の保育所の風景。手前右は息子さん。

大泉ひろ子さんを応援します!!

モデル都市へ夢を託したい

後援会長・元市長
藤沢 順一

筑波研究学園都市建設から50年たち、国から予算がとれなくなり、研究機関や企業は、有利なところで研究開発を進めた方がいいという時代にあります。全国の自治体が互いに生き残りを懸ける中、都市の戦略がないと研究機関や企業は出て行ってしまいます。

つくば市は、TX沿線開発も含め4兆円もの税金が投入された特別な市なのですから、全国トップレベルの世界的なモデル都市になっていなくてはなりません。

そういうことを踏まえ、いいリーダーがいないかと探していた中、大泉さんに無理にお願いしました。大泉さんは厚生省出身で行政経験が豊か、政治経験もある、これからのかじ取り役として最もふさわしい人です。

私は自分のことをつくばの土に埋まる「土人」と呼び、新たに学園に来た人を「風人」と呼んでいます。大泉さんは土地っ子ではありませんが、そよ風と土が混じり合って新しい風土が現れ、新しいつくばの文化が生まれます。新しいリーダーにこれからのつくばをしっかりつくっていってほしい。市民と共に考える大泉さんに夢を託します。(古来在住)

初の女性リーダー誕生を

後援会副会長
小倉 洋子

大泉さんとは衆議院議員になる前、初めて出会いました。つくばで生まれ、つくば育ちの私のところに「つくば市のことを教えてください」と訪ねてきました。厚生省にいてすばらしいキャリアを持っているのに、話をよく聞いてくれ「謙虚な人がいるんだなあ、誠実な人だなあ」というのが第一印象です。

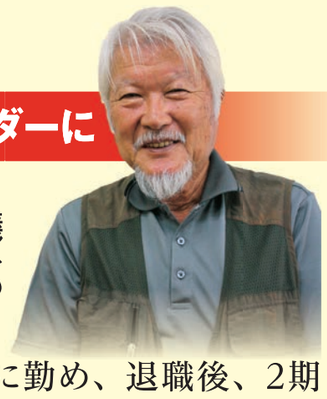
私は社会福祉の仕事をしているのですが、質問をするとぽんぽん答えが返ってくる、さすがプロ、本物だなあと感心しました。

2012年の衆院選で落選後、「ありがとうございました」とお世話になった人に言っている姿を見たとき、政治から身を引こうとしているのではないかと思いました。しかし藤沢元市長が声を掛け、決意したと聞いています。

私は次のつくば市のリーダーに、清潔な人を選びたかったので、友だちと相談し、皆で大泉さんを応援しようと決めました。

つくば市が誕生して来年で30年です。科学都市、国際都市に見合う政治をしてほしい。新しい風を起こし、都市部と農村部の調和ある市をつくってほしい。初の女性リーダーの誕生を期待しています。(旧筑波町出身、上ノ室在住)

極めて優れたリーダーに



元市議
亀山 大二郎

30年以上民間企業に勤め、退職後、2期8年市議を務めた経験から、地方自治体とは地域最大のサービス業だととらえています。税金や公共料金を納めて自治体の財政を支えている住民は、株主であり顧客です。自治体を経営していくのが首長で、優れた経営者としての能力が問われます。

大泉さんは厚生省に勤め、国とのパイプがあり、ユニセフのオフィサーとして海外で活動した経験もあります。山口県副知事も務め、地方自治体がどういうものかよくご存知です。豊富な経験をもっておられます。

昨年つくば市では総合運動公園計画の住民投票が行われ、私も市民団体の一員として活動しました。なぜ市民運動が起こったかというと、現市長の住民無視の行政に対して、市民が怒ったということだと思います。

大泉さんが風通しのよい市役所にして、株主であり顧客である市民をいつも忘れないでいれば、極めて優れた市長になり、いい政治ができると思います。私は大泉さんを全力で応援します。(市之台在住)